



第30号

栃木県書道連盟
 会 員 数 現在827名
 会 長 柿沼翠流
 〒329-1261
 矢板市扇町2-10-6
 TEL (0287) 44-0622
 編集事務局
 振替口座 00340-3-9017
 〒324-0021
 大田原市若草1-1475-37
 印刷 松井ビ・テ・オ印刷

書はなぜ学ぶのか



栃木県書道連盟

会長 柿沼 翠流

3月11日、大震災が起きて多くの命、文化、自然がうばわれた。このため連盟の行事の会員展、講演会を中止せざるを得なかった。役員会で慎重に協議しみなさまの御理解を賜りました。これらに計上していた予算とみなさま個人の尊い浄財を災害の義援として災害地に送らせていただきました。栃木県書道連盟は開關以来60余年永々として発展して参りました。現在会員数827名で最盛期に比較するとかなりの減であります。

この事に書文化の危惧を抱きます。対策を考えねばなりません。本年から「未来につながる夢プロジェクト」を立ちあげ(一)会員数の増強と若手育成(二)魅力ある事業をどうするかを主内容として現在話し合いを続けております。熱い意見が出て今後につながる期待しております。さて私は自分に「書とは何だ。なぜ学ぶのか」と問いかけております。今、世の中は展覧会の功罪がさかんに問われております。入選入賞の為にいくつかの俗例が書を疲弊させているようです。だから「書は何の為に学ぶのか」と一人一人の思考と判断



平成23年度書道連盟総会

平成23年度 書道連盟通常総会開催される

理事 柳田 昂雲

本年度の総会は4月24日(日)にホテル丸治で開催された。

柿沼翠流会長は挨拶の冒頭で、関口鶴情先生の書展の帰りに車をつき上げる異常を感じたと東日本大震災

にかかわっているのです。書は展覧会のためが全てであったり肩書きやランクづけのものではない筈です。会員のみなさまどう考えておられますか。私は、書を通して何を求めるのかということが絶対条件だと考えております。

六月上旬初夏の風にのって友人と張遷碑を見たくて青島路を歩いて来しました。碑は静かに待っていてくれました。「ヤア二度目ですな。」碑は

黙然としていました。碑の線条と私の生命が融合しました。至福の一刻でした。案内してくれた中国の20年来的友人が「日本は強い国」はい復興を祈ります。ご友人のみなさんにそう伝えて下さいとニッコリ。

私達は書という素晴らしい文化を持っています。みなさまの更なる御支援御協力をお願い申しあげ、御健筆御健勝をいのります。

の恐怖の体験を語った。議長に橋本鳳泉氏を選出。議事に入り、前年度事業報告。収支決算報告と監査報告が承認された。次に本年度の事業計画・収支予算が承認された。

この総会では、会員名簿の作成(総務部)、講演会の中止(研修部)、会員展の中止(書展部)等東日本大震災の影響が色濃く反映されることになった。

また質疑では、寄付金の扱いについて。研修旅行についての提案。県芸術祭の審査についての提言等、多くの意見要望が出されて、例年になく有意義な総会となった。

各部活動の方針と内容

総務部

部長 癸生川天遊

総務部の本年度の努力目標は昨年に引き続き、①早めの計画・早めの行動、②正確な任務の遂行、③互いの連携と協力、この3点です。他の部、事務局ともよく連携を取り役割を果たしていきたいと思っています。

部員は副部長の安藤磨紀、澤田寛、他、大類天鶴、倉持玄風、竹澤久子、日賀野琢、室井池水、森田桂石、柳田昂雲、吉田竹溪の10名と部長の癸生川天遊です。

本年度の部の主な仕事は、①総会の開催、②会報の発行、③県展入選・入賞者の集い、④書文化の普及と若手育成のための取り組み、の4点にプラスして「会員名簿の作成」が入り5点となります。

本年度は事業が増えましたが、昨年同様に着実かつ建設的に仕事を推進して充実できるよう努めていきたいと思っています。会員の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

研修部

部長 木曾 梅邦

研修部——活動の方針と内容

5月13日に第一回の部会をもち、

次の活動内容について検討する。理事會に提案し、承認をいただいた。

(一) 研修旅行

●とき 平成23年10月16日(日)

●方面 千葉県。成田山書道美術館、「西川春洞とその時代」伊藤忠敬記念館、他。

●費用 7千500円(交通費・昼食他)

(二) 実技講習会

●とき 平成24年3月4日(日)

●会場 宇都宮市「ニューイタヤ」

●講師 河野隆先生(大東文化大学書道学科主任教授)

(三) 講演会

●とき 平成24年4月29日(日)

(総会の後に行なう)

●講師 林香君先生(文星芸術大学大学院教授)

●演題 「見えないものを見る目」

会員の研修と親睦のため、充実した活動になるよう願っています。

書展部

部長 村松 太子

第50回記念連盟会員展

この度の未曾有の被害をもたらした東日本大震災と未だ回復ままたない福島第一原発事故問題が及ぼす多くの不安定な日本の状況を鑑みて、本書道連盟の理事會は4月3日(日)に第50回記念連盟会員展の今

年度中止を決議いたしました。

書展部としては、栃木の書の百花が繚乱するであろう記念すべき50回展の準備として、席上揮毫やギャラリートーク等のイベントや記念賞は人材発掘や底辺拡大を見据えた選考等を計画してきましたので、心にぽっかり穴があき…となりました。

会員の皆様方にも、やるぞーと気合いを入れ既に作品が完成されていたのではと拝察いたします。

この度の苦厄は私達日本人の生き方を見直す契機になるのではないかと。謙虚になり、強く生きるのだと。

第50回記念展は平成24年4月27日(金)～30日(月)、県総合文化センターで仕切り直しです。皆様、今から制作を始めて下さい。栃木の本物の書展を実現しましょう。

「県展入賞・入選者の集い」

理事 安藤 磨紀

平成22年度「第64回栃木県芸術祭書道展入選入賞者のつどい」が、11月7日(日)午後4時からホテルニューイタヤにおいて開催された。

ご来賓の先生方を含め、計197名が一堂に会し、入選・入賞の喜びを分かち合った。

主催者として栃木県書道連盟会長柿沼翠流先生が「全体的に作品レ

ベルが向上し良い傾向にある。」と挨拶され、受賞者代表挨拶では芸術祭賞を受賞された斎藤一吼氏が「これからも努力を重ねて良い作品を作りたい」と力強く話された。和やかな雰囲気の中、2時間にわたり懇親の和が広がった。



審査員一同



受賞者代表挨拶

平成22年度研修旅行

「連盟研修旅行を顧みて」

理事 上村 千嶂

平成22年度研修旅行は10月17日
総勢38名で山梨方面へ日帰りバス
研修となりました。JR宇都宮駅
集合の他に小山駅そして足利にも
集合場所を加えたことで、昨年よ
り幅広い地域の参加者が集まりま
した。予定時間を30分遅れの足利



山梨県立美術館にて

7・30発でバス旅行は始まりまし
た。

太田桐生インターから北関東高
速道路に乗り柿沼会長挨拶後、会
長持参の柿下木冠先生のビデオ
(柿下木冠一魂の造形)を見なが
ら関越高速の高坂SAで休憩を取
り、中央道甲府昭和ICを降り第
一目的地の山梨県立美術館(ミレー、
ルソー、ホーガス等)を見学しまし
た。

第一級名画の迫力に感激と感嘆
に包まれてじっくりと鑑賞してき
ました。

書作する為の他芸術のエッセン
スを取り入れる研修として価値あ
る鑑賞でした。

名画鑑賞後は美術館近くのお店
で山梨名物の「ほうとう」を食べ
研修前半の予定を過ぎました。

次の目的地である「身延町なか
とみ和紙の里」へとまた高速に乗
ること小一時間、昼食後の午睡と
いうことで静かに車中は過ごしそ
のうちの和紙の里に着きました。

和紙の里では、買物と紙すきの

説明を受け約1時間の見学をし
ました。紙すきの実演はお休みでし
たが、せっかくなので和紙の里の
担当者に交渉し、簡単ではありま
したが紙すきの説明をして頂きま
した。

普段紙すきの話や作業の説明な
ど聴くこと出来ませんので、質問
等をしている内に出発の時間が来
てしまい1時間があつと言う間に
過ぎてしまいました。

次の目的地は昇仙峡です。午後
3時頃には天気回復し太陽ものぞ
き始めバス移動中は眩しい位でし
た。車中では雰囲気も和みその内
昇仙峡に到着しました。30分と短
い停車でしたが昇仙峡奥にある仙
娥滝を見学とお土産を買い求め秘
峡を堪能しました。



紙すき説明を受けている様子

最後の目的地は葡萄園です。夕
焼けを見ながらの移動でしたので
現地着時には暗くなつてしまい、
ぶどう狩は出来ずトイレ休憩と買
物のみで帰路となつてしまいました。
た。

帰路の中央高速は予想通り渋滞
でしたが、バス内は渋滞を吹き飛
ばす勢いでカラオケが盛り上がり
次々に喉を披露し、大幅遅れのバス
内は喝采の拍手で延々続きました。
帰着は大幅に遅れましたが会員
間交流の楽しい研修となり有意義
な一日を過ごせた旅路でした。



身延町なかとみ和紙の里にて

平成22年度
実技講習会

独立書人団常務理事

柿下木冠先生の理念と実作

理事 櫻井 敬朔

千年に一度といわれる大震災が5日後にあるとは…。

3月6日(日)、アピアを会場に(財)独立書人団常務理事柿下木冠先生を講師にお迎えし平成23年度実技講習会が開催された。今回は例年のような講師による半紙の添削という形態を変えて午前中は講師の書道観、午後は実技と会員は話を聞き、書いている姿を見るという形になった。講師の魅力と相まって例年以上の参加(235名)があったことは今後の講習会のやり方に一石を投じた講習会となった。

「私の書作」と題した講話は先生の生誕から現在までを熱く語られた。

印象に残った言葉の中で二三記すと

①私の根っこは大井川の上流で最初の一滴から支流へそして大井川へそして駿河湾太平洋に注ぐという風土にある。とご自分の作品の背景に生誕地の風土を上げられた。

②先生の師である山崎大抱先生を評して手島右卿先生と理念は一緒だがマネはしない。

③臨書とは一点一画を分解して再構築すること。

等々私たちにとって含蓄のある言葉をいくつも残された。そして自作の解説に入った。①模索期②自立へ象書的追求③造形への自覚とご自分の創作時期を三区分されて解説された。

全部で33点の作品を澁みなく説明されたことは作品との関わりが如何に深いかということが想像される。

素材との出会いは実に多彩だ。



柿下木冠先生



作品揮毫風景

散歩していて土の色の変化を感じて書いた「春土」を始め自然の美に触発されて生まれた作品。芸術作品に触発されて生まれた「古」「拳」などの作品。社会の動きに反応した「壁」「手」などの作品。



純粹造形追及から生まれた「出芽」「牛」などの作品群。情熱的な解説に参加者は引き込まれ瞬く間に予定の時間になり、最後に津川農氏のことばとして「現代書とは自分がある、今がある、自然がある、未来があるもの」を紹介して終了した。

午後は模範揮毫だ。12尺×8尺の大作を始め3時までの2時間を休む間もなく、時には笑いを誘いながら11の素材を書いて見せていただいた。側筆の筆使いの妙、気合、間、リズムをみせていただき参加者は大いに感動したことである。充実した一日となった。改めて柿下先生にお礼申しあげます。

字数がなくなり後半が簡略になってしまったがお許しいただきたい。

第26回 女流展

理事 細川 紫雲
理事 皆川 桂花

第26回栃木県書道連盟女流展は、平成23年1月7日(金)～10日(月)迄、栃木県総合文化センター第4ギャラリーで開催されました。

書展部の村松太子部長が中心となり、多くの役員や会員の皆様のご協力のもとスムーズに搬入・展示が行われ、見ごたえのある展覧会となりました。

恒例の講評会は8日(土)午後1時から連盟副会長の大浦舟人先生を講師に迎え、総合司会を長嶋石城理事、進行を川島汀蒲理事により進められ、講師の奥深い見識からの的確な書評に皆真剣に聞き入っていました。講評会後、講師を囲んでの懇親会がホテル丸治で行われ、お楽しみ抽選会などで盛り上がり楽しいひとときを過ごしました。

[講評文要約・敬称略]

- ・小林香風 熟達し高いレベルの作品。
- ・川原宜春 選文よく淡墨の世界感。
- ・高橋草濤 穏やかな線で広がりあり。
- ・伊澤小園 気脈が通り格調高い作品。
- ・柏崎麗泉 強い線質で実力を感じる。
- ・釜井光江 2字で表現力のある作品。
- ・石原水蒲 句を味わって書くといよい。



第26回女流展会場

- ・齋藤桐香 丁寧で落着きのある作品。抑揚があると更によい。
- ・山越昌子 絶妙な構成で見事な作品。力をつけてきたが模刻を。
- ・高村紫映 稲穂を施し楽しい作品。
- ・飯島江村 模刻と篆書の臨書が大切。
- ・北村のぞみ 斬新な構成で技量がある。
- ・中田芙蓉 運腕大きく表情豊かな作。
- ・和賀幸恵 重厚な線エネルギーシユ。
- ・栃木洋子 潤渇あるが行間に工夫を。
- ・野島和泉 作品と表装がマッチ見事。
- ・荒井雅子 表情豊かで素晴らしい作品。
- ・寺崎聰子 響きを感じる明るい線質。
- ・古橋洋舟



講評会

- ・山田雅子 想いが伝わる素晴らしい作。
- ・人見翠苑 レベル高く完成の域の作。
- ・村田幽香 独自の世界感で精神性有。
- ・穂山玉星 墨量・速度の変化が絶妙。
- ・小森聖子 明るく飄々とした魅力作。
- ・坂本典子 緻密で線質よく素晴らしい。
- ・加藤榮舟 雑念を払った書。落款注。
- ・下司香雪 のびやかで空間が素晴らしい。
- ・小林桂華 暖かで深みのある線質。
- ・大平筑風 濃淡が空間を広げた良作。
- ・山本紫苑 粘りのある線も下部工夫。
- ・荒川光裕 清楚でセンスのある作品。
- ・真壁純枝 重厚で深味のある佳作。



懇親会

- ・板橋寿鶴 真剣さあり。気脈が大切。
- ・大塚雅恵 軽快で変化あり。線質可。
- ・平石春水 趙之謙の意あるが工夫を。
- ・原山春雪 ダイナミックだが平面的。
- ・林 游李 奥深く表情が出ている。
- ・佐藤英華 暖かい線で将来性あり。
- ・皆川桂花 線質強く力量を感じる作。
- ・塚原彩香 洒落た表現の佳作である。
- ・渡辺司寶 詩文わかり易く表現力有。
- ・清水柳絮 潤渇妙で独特の雰囲気有。
- ・渡辺温芳 静と動の対比が見事な作。

第64回栃木県芸術祭書道展

—書道部門審査講評—

審査委員長 重原 聖鳥

県芸術祭美術展書道部門審査は、平成22年10月25日県総合文化センターにおいて、石川善克・磯翠茗・柿沼翠流・兼目悠久・酒井導子・吉田景堂各氏と重原の7名によって慎重かつ公正に行われた。

応募総数は、前年度より18点増の404点。入賞入選は、247点入選率六一・一％であった。

ジャンル	応募数	入選数	%
漢字多字数	二八四	一七〇	五五・九
漢字少字数	三一	十九	六十一・三
漢字仮名交り	三四	二二	六四・七
仮名	二八	十九	六七・九
篆刻	二七	十七	六二・九

審査員各氏の評を総括すると、応募作品が増加したのは喜ばしく全体的に質も年々向上してきているが、

反面傑出した作品が少なかった古典の研鑽と感性を養って師風から脱した個性豊かな作品の、より多数出品が望まれるの意見が大であった

○芸術祭賞 斎藤一吼（塩谷）

美しい墨色と余白の美に輝いた少字数の現代書。力量ある秀作。

○準芸術祭賞 関口鶴情（足利）

清らかで快いリズムにのり正面から挑んだ漢字多字数作。熟達した書線で、鏗度の高い快作。

○準芸術祭賞 見目月華（高根沢）

古今和歌集秋歌三首仮名。古筆による精錬された書線・起承転結の自然な構成が光る作。今後が楽しみ。

○奨励賞 上村慎一（足利）

筆を充分紙に食い込ませ気力充実

の力で運筆していく姿勢に安定感がみられる行草三行漢字多字数作。

○奨励賞 神長雪華（矢板）

六朝楷書の研鑽を積まれた書線は終始乱れることなく気力のこもった好感持てる漢字多字数作。

○奨励賞 西脇紫竹（矢板）

全体構成がよく、安定した筆致で充実感が漂っている漢字多字数作。

○奨励賞 柳田昂雲（佐野）

漢隸の研鑽が書線にみられ余白を充分に生かした構成は、書線と呼応して明るい漢字多字数作。

○奨励賞 平松芳華（宇都宮）

墨色と書線が抒情性をもとし、二行目に重点を置いた漢字多字数作。

○奨励賞 関 獎人（宇都宮）

確かな運筆と書線で、余白を充分生かし心を和ませる漢字仮名交り作期待大なる青年、更なる研鑽を。

○奨励賞 高村紫映（西方）

篆刻。厳密な造形に精緻な刀法で高雅な方寸の世界を演出している。

○奨励賞 林 游李（小山）

篆刻。鋭く切れて強靱で凛線質美しく明るい爽やかな作。

入選と落選は紙一重であり、ベテラン組にも涙した方もありました。書友と切磋琢磨・展覧会場に足を運び次回には更なる秀作が出品されま



柿沼会長による講評

下野の書展出品者
連盟推薦基準について

現在会員展出品（1点）・現在県芸術祭美術展入選（4点）とし、3年前までの記録によって推薦しています。

お知らせ

栃木県文化協会役員改選

（書道関係者）

・鈴木源泉 常任理事（留任）

・重原聖鳥 理事（留任）

・赤澤 豊 理事（新任）

・久津美碧洋 監事（留任）

・丸山暁鶴

（下都賀西部ブロック代表理事）

・入江真海

（上都賀ブロック代表理事）



芸術祭賞
斎藤一吼氏
「雙飛」

中央書壇で活躍する

連盟会員

理事 日賀野 琢

本年は春以降、3月11日に発生した東日本大震災が中央書道界にも色濃く影を落とした。謙慎書道会展は池袋サンシャイン会場の架設パネルの大半が倒壊し、残り2日間の会期を残して閉幕。創玄書道会は翌日、規模を縮小して授賞式を挙行。5月に相次いで行われる予定であった猗園文会展、楨社文会展等も早々と中止を決定。春から初夏にかけては異例の静かな書壇であったように思われる。県内でも同様だが、震災直後は作品が準備万端でも、世間を考慮し、自粛ムードが漂ったのだろう。

しかし、初夏頃からは「復興」をスローガンに、軒並み例年通りの開催に戻りつつあるようだ。大型公募展などは、被災者や罹災地区の出品者のケアを目的に、出品料無料化や会費減免の措置を講じている。

さらに予想されることは、今後の書作品の題材に、この震災から立ち上がろうとする言葉や内容を盛り込んだ表現が増えるだろうということ。今般の毎日書道展文部科学大臣賞を受賞した永守蒼穹氏の『直後黒い塊』は、このことを象徴的に示している。

まさにはこれから我々「書道人」が出来ることは何か。がんばろう日本！

ここでは、昨年の第42回日展とあわせて、本年開催されたばかりの第63回毎日書道展、第28回読売書法展の概況を紹介する。

【第42回日展】

六本木・国立新美術館に会場を移して4回目の日展。一〇、四一九点の応募に対し、974点の入選。超厳選は変わらない。栃木県勢は5名の入選。漢字1・かな1・調和体1・篆刻2と全分野からの入選を得たことは、栃木の層の厚さを物語る。

【新入選】（*日展では、初めて入選したものを、過去入選経験者と区別し「新入選」と呼んでいる。）

○福富玲茜氏「懷舊游」（篆刻）



【入選】（五十音順）

○川上鳴石氏

「奥の細道」（かな）

○嶋田 周氏

「質朴誠實」（篆刻）

○鈴木源泉氏（会友）

「杜甫詩」（漢字）

○関口鶴情氏（会友）

「捨てる」（調和体）

【出品要嘱】

○日賀野琢

「王太岳詩」（漢字）

第63回毎日書道展

【会員賞】

○赤澤 寧生氏（近代詩）

【毎日賞】

○星 司光氏（仮名）

【秀作賞】

○加藤 紫城氏（漢字）

○八木澤秀巖氏（大字）

○作佐部京子氏（篆刻）

○増田 常心氏（刻字）

【佳作賞】

○久保 秀虹氏（漢字）

○小野崎啓太氏（漢字）

○砂川 幽翠氏（漢字）

○篠崎 春水氏（漢字）

○松島 弘歩氏（漢字）

○伊藤 香徑氏（近代詩）

○初谷 峯峰氏（近代詩）

○川上 仙谿氏（大字）

○菅保 青洋氏（大字）

○鈴木 直樹氏（篆刻）

○秋山 浩志氏（刻字）

○山崎 素庵氏（刻字）

【U23奨励賞】

○渡邊 友里氏（仮名）

○福田 寶桜氏（近代詩）

○寺内 有花氏（篆刻）

第28回読売書法展

【読売俊英賞】（幹事対象）

漢字部

○倉持 玄風氏（小山市）

○松本純美代氏（小山市）

【読売奨励賞】（評議員対象）

漢字部

○大塚 清岳氏（宇都宮市）

○塚原 彩香氏（小山市）

かな部

○松本 豊艸氏（足利市）

【特選】（公募・会友対象）

漢字部

○福岡 俊介氏（宇都宮市）

○上村 千嶂氏（足利市）

○阿部 桂舟氏（栃木市）

○田名網萬静氏（栃木市）

○神長 雪華氏（矢板市）

○高橋 瑞峰氏（壬生町）

かな部

○前田 慧山氏（那須塩原市）

【秀逸】

計20名

地区だより

足利市民
文化祭書道展

理事 上村 千嶂

会期 平成22年11月6日～7日
会場 足利市民会館

出品点数 164点

参加資格は足利市に在住・勤務・
勉学・書の勉強をしている者とし、
出品一人一点で160点の応募がありま

足利市民文化祭書道展

した。作品は漢字・調和体・仮名・
篆刻・刻字・墨象と幅広い作品が展
示され、約400名の方々に清鑑頂きま
した。

また、11月6日に開かれた懇親会
には78名の方が参加し文化祭受賞受賞
者の披露が行われ、関口会長選出の
常任理事対象優秀作品2点に特製墨
液贈呈と、その他カラオケ等の余興
に一同大いに親睦を図る事が出来ま
した。

文化祭賞（1名）教育委員会賞
（1名）文化協会賞（1名）奨励賞
（5名）の入賞作品8点は、後日足
利市美術館での市民文化祭優秀作品
展に展示されました。

第4回
県南書人展を開催

理事 田中 暁亭

平成23年2月17日（木）から20日
（日）までの4日間栃木市栃木文化
会館において第4回県南書人展が開
催されました。

この書展は栃木県の南部の書道文
化の普及振興と中央書壇やそれぞ
れの地区で活躍している書人が沢山お
られますが、その方々の作品発表の
場を設け地域の方々に鑑賞して頂け

たならと設立されました。第1回は
小山市道の駅「小山評定館」、第2
回は足利市足利市立美術館・第3回
は佐野市文化会館で開催され今回で
4回目になります。参加地域は当初
5市6町でしたが、今年は合併によ
り5市3町が参加しております。県
南4市を持ち回りで開
催してきました。それ
ぞれの市で特色のある
展覧会が行われ、各市
の行政の方々や県書道
連盟のご協力などを得
て盛大な書展として注
目されてまいりました。
第四回展の出品者は、
各地域より選拔され
た106名で一人一点
の出品ですから106点
が展示されました。各
自力作が出品され変化
のある充実した内容の
展覧会になりました。

また栃木県書道連盟
の柿沼翠流会長先生や
役員の先生方のご来臨
を頂き懇親会にも花を
添えていただき誠に有
難うございました。厚
くお礼申し上げます。



第4回県南書人展



第4回下野市

書道連盟展開催

下野市書道連盟事務局長

飯野 彩心

3月11日(金)に発生した東日本大震災惨事のあと、展覧会を中止にしようという声は一度もあがらなかった。市内の公共施設は被災者受け入れ等により、全て予約取消となったが、生沼冬情会長宅の教場に集まり、打合せ・準備を進めてきた。

こうして、6月10日(金)から12日(日)まで、下野市グリの館で第4回展を無事に開催。今年は、昨年より4点増で、高校生から90代までの会員が出品、漢字・仮名・詩文・書・大字書・篆刻など多彩な作品80点が並ぶ。会期中は天候にも恵まれ、来場者も昨年より多く、盛会裏に終わることができた。

来年は、第5回展を迎える。更なる研鑽を積み、書道・文化の発展・興隆のため、会員一同今後邁進し続けたい。

がんばろう日本！
がんばろう栃木！

第10回記念

鹿沼市書道連盟展

鹿沼市書道連盟会長

兼目 悠久

鹿沼市書道連盟の第10回記念展が

平成23年3月11日(金)より13日(日)まで、鹿沼市民文化センターギャラリーで開催された。

10回展は前年度より8点多く、74点の出品があった。10回記念展に対して、会員の関心と意気込みも高く、充実した内容の作品が寄せられ盛会であった。

3月11日、展覧会初日、午後2時46分、あの東日本大震災が起きた。強烈な揺れに、ギャラリーの天井が落ちるのではないかと恐怖を覚えた。幸いギャラリーは損傷もなく、事なきを得た。

3月12日(土)、13日(日)、地震による停電が心配されたが、電気も止まることなく、展覧会を開催できた。大地震はあったが、記念展を無事終了することができた。



第10回記念鹿沼市書道連盟展

佐野が誇る子供書道展

四家 汐犀

佐野秀郷祭り子供書道展は、幼年から高校生まで、約900点を展示しています。

特記すべきことは、上位入賞者の選考です。すべての書塾の先生方の記名投票によるもので、自分の教え子に一票を投じることは禁じられています。上位入賞者には、自分の名前の刻まれた楯・賞状が壇上にて授与されます。また、全出品者に金・銀・銅賞の賞状と賞品が贈られます。子供一人一人を大切にするといふ連盟の方針がここにあります。

前回の開催より、栃木県書道連盟会長賞を設けていただきました。会長柿沼翠流先生の心に響くご祝辞、賞状の授与に対し、心よりお礼を申し上げます。今後も情操豊かで、自国の文化を尊ぶ子供を育成する為、尽力してまいります。



佐野子供書道展

小山市書道連盟報告

理事 大竹 青嵐

小山市書道連盟の指針

小山市書道連盟は、各会派(5名以上)に所属する人たちが構成され、その代表者が役員を務める。各諸派は役員会や書道展では互いに協力し、連盟として一つにまとまっている。各会派とも古典に立脚した本格的な書道を目指し、研鑽を積んでいるのでレベルは高い。

また、書道の普及と若手の育成に力を注いでいる。活動の中心は連盟展と文化祭書道展であるが、ここ数年出品者数は横ばいを続け、メンバーの顔ぶれも同じような状況が続いている。そのため役員会でもこの閉塞状態をどうするか話し合いが繰り返された。具体的な案は出されていないが、全国レベル、県レベル、市レベルでも抱えている問題は共通している。これから先の連盟の存続にもかかわる問題である。



小山市書道連盟展

月別各地区催し物案内

開催月	名称	期日	会場	責任者
6月	第4回下野市書道連盟展	6/10～6/12	グリムの館	生沼冬情
	第7回佐野市文化祭書道展	6/11～6/12	佐野市文化会館	森田桂石
8月	第16回さの秀郷まつり子供書道展	8/6～8/7	佐野市文化会館	森田桂石
	栃木県小・中学校教職員書道展	8/23～8/25	県総合文化センター第1ギャラリー	黒須親章
	第46回素心社書展	8/25～8/28	県総合文化センター第4C第3ギャラリー	澤田 寛
	第7回毎日書道展審査会員展栃木の会	8/26～8/28	県総合文化センター第4A・Bギャラリー	塚原秀巖
9月	第7回グループ005Wの会書展	9/15～9/18	県総合文化センター第4Cギャラリー	村田幽香
	第2回芳賀地区書道会会員展	9/16～9/19	芳賀町情報館	刑部素心
	公募第42回東日本書道展	9/30～10/3	県総合文化センター第3・4ギャラリー	木曾梅邦
10月	平成23年度さくら市書道連盟展	10/7～10/10	道の駅きつれがわ内さくら市総合交流ターミナル展示室	鈴木正倫
	壬生町文化祭書道展	10/7～10/9	壬生町中央公民館	高橋瑞峰
	第24回硯遊会書展	10/14～10/16	那須塩原市いきいきふれあいセンター	高橋金舟
	上三川地区展覧会	10/21～10/23	上三川町勤労者体育センター	伊沢静水
	第33回鹿沼市文化祭書道展	10/21～10/23	鹿沼市文化活動交流館ギャラリー	中田婦美
11月	第58回小山市民文化祭書道展	11/11～11/15	道の駅思川評定館	倉持玄風
	第9回大田原市書道連盟展	11/18～11/20	那須野が原ハーモニーホール	長嶋石城
	第14回栃木県小中学生選抜書道展	11/22～11/23	宇都宮市文化会館展示室	日賀野琢
	第62回芳賀地方芸術祭書道展	11/25～11/27	茂木町並松運動公園体育館	矢野弓翠
1月	清明書展	1/13～1/15	県総合文化センター第4ギャラリーA・B・C	中野永峰
	第39回鹿沼市民書初展	1/18～1/22	鹿沼市文化活動交流館ギャラリー	渡邊司寶
2月	第8回茂木町書道連盟展	2/3～2/14	茂木町「道の駅」	矢野弓翠
	チャリティー展	2/16～2/19	ロブレ生涯センター	倉持玄風
3月	第13回栃木県青年書作家協会会員展	3/9～3/11	県総合文化センター第4ギャラリーA・B	日賀野琢
	第5回芳賀町書道連盟会員展	3/18～3/25	芳賀町情報館	小林芳邨
	中野永峰書展	3/22～3/27	県総合文化センター全ギャラリー	中野永峰
	第11回鹿沼市書道連盟展	3/29～3/31	鹿沼市文化活動交流館ギャラリー	兼目悠久
	小山市書道連盟役員展開催予定	3月中	未定	倉持玄風

※栃木県書道連盟会員の関係する催し物で、ご連絡を頂いた催し物(書道展)を掲載致しました。

平成22年度 収支決算書

[収入の部]

(単位:円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘 要
1.会費	4,200,000	4,365,000	165,000	5000円×873口
2.会員展	440,000	392,000	△48,000	1000円×392名
3.女流展	330,000	300,000	△30,000	1500円×200名
4.雑収入その他	92,818	1,602,916	1,210,098	寄付金、助成金、タックシール等
5.前年度繰越金	327,182	327,182	0	
合 計	5,390,000	6,687,098	1,297,098	

[支出の部]

項 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減	摘 要
1.総会費	110,000	112,228	2,228	会場費・看板代等
2.展覧会費	1,100,000	998,434	△101,566	
①会員展	550,000	557,205	7,205	会場費、看板代
②女流展	450,000	354,229	△95,771	会場費、案内状他
③関連書展	100,000	87,000	△13,000	県展・下野書展、他
3.会議費	800,000	665,113	△134,887	
①顧問・参与会	50,000	11,000	△39,000	1回
②正副会長会	50,000	51,739	1,739	4回
③常任理事会	50,000	65,217	15,217	7回
④理事会	350,000	214,138	△135,862	5回
⑤専門部会	300,000	323,019	23,019	総務・研修・書展各部会議費
4.国際書道交流費	100,000	900	△99,100	
5.研修費	800,000	763,664	△36,336	
①後援会	350,000	250,710	△99,290	講師謝金他
②実技講習会	350,000	444,461	94,461	講師謝金、会場費他
③研修旅行	100,000	68,493	△31,507	山梨方面研修関係費
6.地区活動費	30,000	0	△30,000	
7.通信・印刷費	1,300,000	1,426,176	126,176	
①通信費	650,000	595,759	△54,241	送料、通信費他
②印刷費	650,000	830,417	180,417	会報・各種行事案内印刷等
8.渉外・運営費	650,000	524,920	△125,080	高校生顕彰・慶弔費・関係団体負担費
9.事務費	400,000	438,720	38,720	
①消耗品費	150,000	161,806	11,806	事務用品費
②事務運営費	250,000	276,914	26,914	事務関係諸費
10.予備費	100,000	0	△100,000	
合 計	5,390,000	4,832,068	△557,932	

収入決算額 6,687,098

支出決算額 4,832,068

差引額 1,855,030 次年度繰越金 1,855,030

☆連盟基金残高 131,570

上記の通り決算報告致します。

栃木県書道連盟会長
同 会計柿沼 翠流
下司 香雪

会 計 監 査 報 告

平成22年度 栃木県書道連盟 収入支出の決算について、4月2日に監査した結果、使途、決算書、証憑等適正であることを認めます。

平成23年4月2日

監事

大場 山 東

監事

細小路 浩 雄

平成23年度 収支予算書

[収入の部]

(単位:円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1.会費	4,155,000	4,200,000	△45,000	5000円×831口
2.会員展	400,000	440,000	△40,000	1000円×400名
3.女流展	0	330,000	△330,000	
4.雑収入その他	90,000	92,818	△2,818	タックシール等
5.前年度繰越金	1,855,030	327,182	1,527,848	
合 計	6,500,030	5,390,000	1,110,030	

[支出の部]

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1.総会費	70,000	110,000	△40,000	会場費等
2.展覧会費	470,000	1,100,000	△630,000	
①会員展	270,000	550,000	△280,000	24年度会場費
②女流展	200,000	450,000	△250,000	24年度会場費
③関連書展	0	100,000	△100,000	県展・下野書展他→渉外運営費へ
3.会議費	820,000	800,000	20,000	
①顧問・参与会	50,000	50,000	0	
②正副会長会	70,000	50,000	20,000	
③常任理事会	50,000	50,000	0	
④理事会	350,000	350,000	0	
⑤専門部会など	300,000	300,000	0	総務・研修・書展各部会議費
4.国際書道交流費	100,000	100,000	0	
5.研修費	800,000	800,000	0	
①後援会	350,000	350,000	0	講師謝金・会場費他
②実技講習会	350,000	350,000	0	講師謝金・会場費他
③研修旅行	100,000	100,000	0	
6.地区活動費	150,000	30,000	120,000	役員改選のため 13地区
7.通信・印刷費	1,600,000	1,300,000	300,000	
①通信費	650,000	650,000	0	各種行事案内、送料、通信費
②印刷費	950,000	650,000	300,000	会報・会員名簿・各種行事案内印刷等
8.渉外・運営費	750,000	650,000	100,000	高校生顕彰・慶弔費・関係団体負担金
9.事務費	450,000	400,000	50,000	
①消耗品費	170,000	150,000	20,000	事務用品等
②事務運営費	280,000	250,000	30,000	事務局関係諸費
10.予備費	790,030	100,000	690,030	
11.連盟基金	500,000	0	500,000	連盟基金へ繰り入れ
合 計	6,500,030	5,390,000	1,110,030	

収入予算額 6,500,030

支出予算額 6,500,030

差引額 0

連盟基金 131,570

+500,000

計 631,570

平成22年度事業報告

総務部	総会	4月25日(日) 13:00～14:30	会場:栃木県総合文化センターサブホール 進行:磯 翠茗(矢板) 議長:刑部素心(市貝町) 書記:日賀野琢(宇都宮)、坂本芳久(日光) 議事録署名人:関口鶴情(足利)、森田桂石(佐野) 総会出席者:181名 懇親会:ホテル丸治 17:30～ 会費:6,000円 進行(澤田) 参加者:115名
	会報(第29号)発行	9月1日(水)	A4版 20頁 1500部
	第64回栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつとめ(同日批評会:文化協会主催)	11月7日(日)	会場:ホテルニューイタヤ 会費:6,000円 15:30から受付16:00～18:00 参加者:205名 審査員:重原聖鳥・柿沼翠流・石川善克・磯 翠茗・兼目悠久・酒井導子・吉田景堂 受賞者:「芸術祭賞 齊藤一吼」 :「準芸術祭賞 見日月華・関口鶴情」 :「奨励賞 上村千嶂・神長雪華・関 奨人・高村紫映 西脇紫竹・平松芳華・林 游李・柳田昂雲」 [会期:平成22年10月30日(土)～11月9日(火)]
	書文化の普及と若手育成のための取り組み	2月中旬	高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 11月上旬 県内高等学校・連盟役員への案内 12月上旬 推薦者申請締切・賞状の準備 平成23年2月6日 審査(常任理事会) 表彰者 9校13名 (受賞者が下野新聞に公表される)
研修部	講演会	4月25日(日)	会場:栃木県総合文化センターサブホール 15:00～16:30 講師:石川芳雲先生『日本書道学院長・西安碑林博物館名誉教授』 演題「何紹基書法の一斑」 入場者200名
	研修旅行	10月17日(日)	方面:山梨美術館・西島手漉き和紙会館・昇仙峡 参加費:10,000円(バス代、昼食代、見学料を含む) 参加者38名
	実技講習会	3月6日(日)	会場:アピア 講師:柿下木冠先生(財)独立書人団常任理事 テーマ 「私の書作」 ※書作家としての全貌を体験出来る 講話と実作 参加者 講習会235名 懇親会83名
書展部	第49回会員展	4月23日(金) ～26日(月)	会場:栃木県総合文化センター第1・3・4(ABC)G 搬入:平成22年4月22日(木) 出品点数401点 規格 仕上がり寸法(軸ものは不可) A タテ 170cm×ヨコ 50cm以内(縦横自由) B タテ 90cm×ヨコ 90cm以内 C篆刻 タテ 39cm×ヨコ 30cm 出品料 1,000円 「栃木県書道連盟賞」:3点 過去受賞者は対象外 審査員:石川芳雲先生 受賞者:井上都洞・癸生川天遊・西脇紫竹
	第26回女流展	1月7日(金) ～1月10日(月)	会場:栃木県総合文化センター第4(ABC)G 規格 仕上がり寸法 A タテ 170cm×ヨコ 50cm以内(縦横自由) B タテ 90cm×ヨコ 90cm以内 C篆刻 タテ 39cm×ヨコ 30cm 出品料 1,500円 講評会:1月8日(土)13:00～15:00 会場において 講師:大浦舟人先生(本連盟副会長) 懇親会:時間16:30 会場ホテル丸治・会費5,000円 参加者70名

各種会議実施記録

会議	顧問参与会	1回	7/31(土)
	正副会長会	4回	4/25(日)、5/23(日)、12/7(火)、23年1/10(日)
	常任理事会	7回	4/25(日)、5/18(日)、7/25(日)、8/22(日)、12/12(日)、23年2/6(日)、4/3(日)
	理事会	5回	5/23(日)、8/22(日)、12/12(日)、23年2/6(日)、4/3(日)
	専門部会		総務部、研修部、書展部それぞれ多数回実施
	監事務局会議		4/2(土) 18回実施

平成23年度 事業計画

4	4	4	5	5	6
24	29	27 30	19	19	19
平成23年度総会 会場 ホテル丸治 時間16:00～17:30 進行 澤田寛(宇都宮) 議長 橋本鳳泉(宇都宮) 書記 日賀野琢(宇都宮)、竹澤久子(下都賀) 議事録署名人 吉田竹溪(宇都宮)、倉持玄風(小山市) 懇親会…ホテル丸治 会費…5,000円 進行…安藤磨紀 平成23年度講演会 中止 (平成24年度へ 会期24年4月29日(金)) 会場 栃木県総合文化センター1階ホール 講師 林 香君先生(文星芸術大学大学院教授) 演題 「見えないものを見る目」(平成23年度中止の内容を実施) 第50回記念会員展 中止 (平成24年度へ 会期24年4月27日(金)～30日(月)) 会場 栃木県総合文化センター第134(ABC)G 搬入 平成23年5月26日(木) 規格仕上がり寸法 A タテ 170cm×ヨコ 55cm以内(縦横自由) B タテ 90cm×ヨコ 90cm以内 C 篆刻 39cm×ヨコ 30cm以内 出品料 1,000円 イベント 揮毫会…関口鶴情、井上幸枝、斎藤一吼、塚原秀巖、嶋田 周、井上都洞 ギャラリートーク…記念展選考委員(正副会員) 褒賞…「第50回記念賞」(点数5点)賞状・副賞 審査員(記念展選考委員)…常任顧問、正副会長、常任理事 祝賀会…5月29日(日)授賞式実施 時間16:30～ 会場・会費…ホテルユイタヤ、6,000円 第1回正副会長会 継続審議事項の協議 16:00～18:00 ホテル丸治 第1回常任理事会・第1回理事会 各専門部事業執行状況について、継続審議事項の協議 ホテル丸治 常任理事会…14:00～16:00 理事会…16:00～18:00 第2回正副会長会 魅力ある書道連盟をめざして、第1回「未来につなぐ夢プロジェクト」 についての共通理解 16:00～17:00 ホテル丸治 第1回魅力ある書道連盟をめざして「未来につなぐ夢プロジェクト」会議 17:00～19:00 ホテル丸治 【発足の趣旨】 継続審議の内容、会員の増強、中国浙江省との交流、役員改選のあり方、更に は、若手育成等々広範囲に審議し、これからの栃木の書の発展のため「未来につ なぐ夢プロジェクト」を発足する。 委員長 柿沼翠流、副委員長 赤澤 豊 プロジェクトメンバー(12名)任期は次期役員選出までとする。 会長 柿沼翠流 副会長 赤澤 豊 副会長 松本宜馨 副会長 大浦舟人 常任理事兼総務部長 癸生川天遊 常任理事兼研修部長 木曾梅邦 常任理事兼書展部長 村松太子					

7	9	9月 3月 10月 12月	10	11	12	1	3	3
17 17	1		9	6	27	29	4	11
常任理事兼事務局次長 五江淵豊水 理事兼事務局 塚原秀巖 理事兼事務局 中原睦美 会員代表 飯野彩心 第3回正副会長会 16:00～17:00 ホテル丸治 第2回魅力ある書道連盟をめざして「未来につなぐ夢プロジェクト」会議 17:00～19:00 ホテル丸治 会報(第30号)発行 A4版約16頁 1,500部 年間事業計画、予算案、地区だより、県内展覧会 覧など 第2回常任理事会・第2回理事会 各専門部事業進捗状況・継続審議事項・役員改選方法・研修旅行等の協議 14:00～16:00 ホテル丸治 役員改選の準備 書文化の普及と若手育成のための事業 高校生顕彰「栃木県書道連盟表彰」 10月 県内高等学校・連盟役員への案内送付 11月 推薦者申請締切・賞状の準備 12月 審査決定 1月 結果通知 第4回正副会長会 16:00～17:00 ホテル丸治 第3回魅力ある書道連盟をめざして「未来につなぐ夢プロジェクト」会議 17:00～19:00 ホテル丸治 平成23年度研修旅行 見学地 成田山書道美術館(館蔵優品展、西川春洞とその世界企画展ほか) 募集人員 40名 申込〆切 9月24日(土) 先着申し込み順 楽しい旅をしましょう 栃木県芸術祭美術展書道部門入選入賞者のつどい ホテルユイタヤ 15:30から受付 16:00～18:00 6,000円 【栃木県芸術祭美術展書道部門会期 10/29～11/8】 第5回正副会長会 16:00～17:00 ホテル丸治 第4回魅力ある書道連盟をめざして「未来につなぐ夢プロジェクト」会議 17:00～19:00 ホテル丸治 第3回常任理事会、第3回理事会 会員名簿発行 印刷部数 1,000部 第6回正副会長会 16:00～17:00 ホテル丸治 第5回魅力ある書道連盟をめざして「未来につなぐ夢プロジェクト」会議 17:00～19:00 ホテル丸治 平成23年度実技講習会 会場 ホテルユイタヤ 講師 河野隆先生(篆刻作家、大東文化大書道学科主任教授) 内容 未定 時間 10:00～ 第4回常任理事会、第4回理事会 女流展 平成23年度休止(第50回記念会員展開催のため) 平成25年度実施予定								

平成23年度役員名簿

◎専門部長

□担当専門部

No.	役職名	地区	専門部	姓 号	No.	役職名	地区	専門部	姓 号
1	会 長			柿沼 翠流	45	理 事	上三川町		神山 紫香
2	副 会 長			赤澤 豊	46	理 事	芳 賀		小林 正韻
3	副 会 長			松本 宜響	47	理 事	下 都 賀		小林 桂華
4	副 会 長			大浦 舟人	48	理 事	下 都 賀		竹澤 久子
5	常 任 理 事			◎ 木曾 梅邦	49	理 事	塩谷町・高根沢町		五江 渕霊水
6	常 任 理 事			◎ 癸生川 天遊	50	理 事	塩谷町・高根沢町		齋藤 一吼
7	常 任 理 事			□ 関口 鶴情	51	監 事			大場 山東
8	常任理事事務局長			村田 幽香	52	監 事			細小路 洸玉
9	常 任 理 事			◎ 村松 太子	53	事 務 局 長			村田 幽香
10	常 任 理 事			□ 吉田 景堂	54	事務局次長			五江 渕霊水
11	理 事	宇 都 宮		安藤 磨紀	55	事務局次長			郷間 大悠
12	理 事	宇 都 宮		大類 天鶴	56	事務局会計			下司 香雪
13	理 事	宇 都 宮		郷間 大悠	57	事 務 局 員			櫻井 素玄
14	理 事	宇 都 宮		櫻井 敬朔	58	事 務 局 員			中原 睦美
15	理 事	宇 都 宮		澤田 寛	顧問・参与				
16	理 事	宇 都 宮		篠崎 無関	1	常 任 顧 問			重原 聖鳥
17	理 事	宇 都 宮		中原 睦美	2	常 任 顧 問			中野 永峰
18	理 事	宇 都 宮		日賀野 琢	3	常 任 顧 問			鈴木 源泉
19	理 事	宇 都 宮		山田 雅子	4	顧 問			酒井 真沙
20	理 事	宇 都 宮		吉田 竹溪	5	顧 問			久津美 碧洋
21	理 事	宇 都 宮		石附 越山	6	参 与			川合 義山
22	理 事	宇 都 宮		下司 香雪	7	参 与			生田目 史雲
23	理 事	宇 都 宮		櫻井 素玄	8	参 与			高梨 峰鶴
24	理 事	足 利		阿部 祥廬	9	参 与			津久井 悠山
25	理 事	足 利		上村 千嶂	10	参 与			高際 翠邦
26	理 事	栃 木		田中 暁亭	11	参 与			人見 翠苑
27	理 事	栃 木		川島 汀蒲	12	参 与			大塚 清岳
28	理 事	佐 野		森田 桂石	13	参 与			秋山 無涯
29	理 事	佐 野		柳田 昂雲	14	参 与			荒井 雅子
30	理 事	鹿 沼		兼目 悠久	15	参 与			上野 鶴陽
31	理 事	鹿 沼		塚原 秀巖	16	参 与			齋藤美与子
32	理 事	日 光		坂本 芳久	17	参 与			石川 善克
33	理 事	日 光		皆川 桂花	18	参 与			越塚 藤翠
34	理 事	小 山		倉持 玄風	19	参 与			勅使川原 素山
35	理 事	小 山		大竹 青嵐	20	参 与			入江 真海
36	理 事	真 岡		細川 紫雲	21	参 与			諏訪 公道
37	理 事	大 田 原		長嶋 石城	22	参 与			丸山 暁鶴
38	理 事	大 田 原		酒井 導子	23	参 与			中山 志峰
39	理 事	矢 板		磯 翠茗	24	参 与			百目鬼 賢
40	理 事	那須塩原		室井 池水	25	参 与			小久保 汗顔
41	理 事	那須塩原		高橋 金舟	26	参 与			谷古宇 栖洞
42	理 事	さ く ら		小森 聖子	27	参 与			刑部 素心
43	理 事	那須烏山市・那珂川町		斎藤 裕一	28	参 与			大谷津 紫水
44	理 事	下 野		生沼 冬情	29	参 与			市川 両僊

月日	曜日	行程表									
10月 16日	日曜	☆栃木交通バス									
		集合場所 A:JR那須塩原 B:矢板バイパス C:JR宇都宮東口 D:小山駅西口 E:佐野道の駅									
		集合時間 5:20 5:50 6:50 7:40 8:10									

		那須塩原駅【西口】=====矢板【4号線バイパス】=====									
		5:20 6:00 東北道 首都高川口 東関東道									
		宇都宮=====小山=====佐野道の駅=佐野C=====浦和=====葛西JCT=====成田IC=====									
		7:00 7:50 8:10 8:30									
		成田山公園 写真 東関東自動車道									
		成田山書道美術館=====成田山【新勝寺】 昼食&お買物=====成田IC=====									
10:50 14:00											
佐原香取IC=====伊能忠敬記念館（伊能忠敬旧宅・家訓書碑）=====佐原香取IC=====											
15:00 16:00 16:20											
東関東道 湾岸 首都高速 東北道											
=====葛西JCT=====本浦和=====佐野SA=====小山=====宇都宮=====矢板=====那須塩原											
19:00 19:20 19:10 20:00 20:50 21:15											

左記の旅程表のように本年度の研修旅行が決まりました。会員の皆様の親睦を深め、書に関する知識を広める意味でも奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

今年度研修旅行について

事務局より

事務局長 村田 幽香

この度の東日本大震災において被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧とこれからの復興と共に、落ち着いた生活を取り戻せますよう、お祈り申し上げます。

さて、本連盟としては平成23年度通常総会においてご承認をいただいた五〇七、二六〇円を義援金として、さらに募金活動呼びかけたところ162名から五七六、四三五円のご協力を賜りました。

合計一、〇八三、六九五円を下野新聞社を通し、日本赤十字社にお贈りいたしましたので、ご報告いたします。ご協力ありがとうございました。

下野新聞社より感謝状

感謝状

栃木県書道連盟 様

この度の東日本大震災発生に際し
下野新聞・東日本大震災救援募金に
多額の浄財を寄付されました
ご厚志に深く感謝の意を表します

平成23年7月19日

下野新聞社
代表取締役社長 観堂義憲

スペシャルコーナー

がんばる栃書連！ 何かが変わる！

魅力ある連盟をめざして

「未来につながる夢プロジェクト」

これからの栃木の書の発展のため、魅力ある連盟をめざして「未来につながる夢プロジェクト」が発足しました。12名のプロジェクトチームメンバーで会員の意見や要望等に応えられるよう、実現の可能性を、具体的に進める活動が始まりました。

ご連絡とお願い

会員入退会手続きについて

入会を希望される方は、社中の代表者、又は本人が事務局に書類を請求の上、手続きをとって下さい。

会員が退会する場合は事務局長（村田）にご連絡下さい。

住所変更・住居表示変更について

住所・住居表示・姓号等に変更があったときは事務局長（村田）までお知らせ下さい。

年会費について

平成23年度分の会費納入がまだお済みでない方は、9月末日までにご送金下さい。

お悔やみ

木村英子様（宇都宮市）
荒牧桂舟様（高根沢町）
斎藤松峰様（宇都宮市）
田村光子様（宇都宮市）
事務局に連絡のあった方を掲載いたしました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

3月11日、東北地方から関東にかけての東日本一帯を未曾有の大地震が襲いました。この東日本大震災により被災した皆様に心より御見舞申し上げます。本県の会員の中にも家屋の損壊や心の不安を抱えた方が多数いらしたという事を聞きました。一日も早く回復される事を心よりお祈り申し上げます。

大震災の影響で、予定していた連盟展や講演会も中止となり、社中の書道展も中止や延期を余儀なくされたものが多数ありました。しかしこの様な困難にもめげず力強い一歩を踏み出して下さる事を願って止みません。

（総務部）